

令和4年
火災・救急統計



糸島市消防本部

はじめに

この統計は、糸島市消防本部管内における、令和4年中の火災・救急・救助等に関し、今後の消防行政上の資料とするため作成したものです。

目次

火災編

1	火災の推移	1
2	火災の状況	2
3	出火件数	3
4	損害額	4

付属資料

資料1	月別の火災状況	5
資料2	月別の火災損害額	5
資料3	月別原因別の出火件数	6
資料4	校区別の出火件数	7

救急・救助編

1	救急出動件数の推移	8
2	救急出動の状況	9
3	事故種別の救急出動件数	10
4	住所・傷病程度・年齢別の搬送人員	11～12
5	救助出動件数の推移	13
6	事故種別の救助出動件数	14

警戒編

1	警戒出動件数の推移	15
2	原因別の警戒出動件数	16

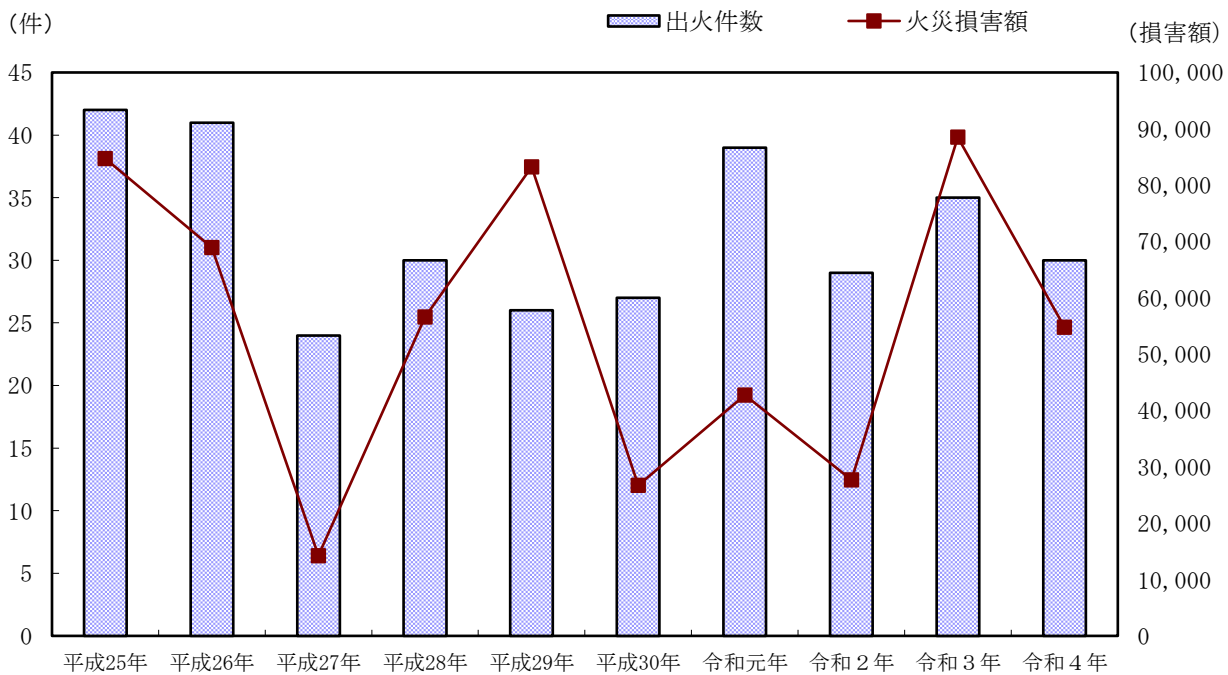
火 災 編

1 火災の推移

令和4年中の出火件数は30件、火災損害額は54,802千円で前年に比べ出火件数は5件減少し、火災損害額は33,697千円減少している。

最近10年間の平均出火件数は約32件、平均火災損害額は約54,823千円である。

最近10年間の出火件数と損害額の推移



年中 区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	10年間平均
出火件数	42	41	24	30	26	27	39	29	35	30	32
火災損害額 (千円)	84,727	68,928	14,257	56,603	83,230	26,751	42,732	27,697	88,499	54,802	54,823

(注) 10年間平均は小数点以下を四捨五入している。

2 火災の状況

令和4年中の出火件数30件は、およそ12日に1件の割合で火災が発生したことになる。

令和4年中の火災による死者は2人で前年に比べ1人減少、また、負傷者は4人で前年に比べ1人増加している。

概況表

区分		年中	令和4年	令和3年	比較
出火件数	建物		13	16	△ 3
	林野		2	3	△ 1
	車両		2	7	△ 5
	船舶		0	0	0
	その他		13	9	4
	計		30	35	△ 5
損害額 (千円)	建物		47,066	87,046	△ 39,980
	林野		0	0	0
	車両		6,290	1,107	5,183
	船舶		150	0	150
	その他		1,296	297	999
	爆発		0	49	△ 49
	計		54,802	88,499	△ 33,697
焼損面積等 (注1)	建物	床面積 (㎡)	1,433	1,324	109
		表面積 (㎡)	136	300	△ 164
	林野 (a)	6	7	△ 1	
	車両 (台)	6	10	△ 4	
	船舶 (隻)	1	0	1	
焼損棟数 (棟)			29	38	△ 9
り災世帯数 (世帯)			14	27	△ 13
り災人員 (人)			33	73	△ 40
死者数 (人)			2	3	△ 1
負傷者数 (人)			4	3	1
1日平均発生件数 (注2)			0.08	0.10	△0.02
1日平均損害額 (千円)			150	242	△ 92
1件当たり損害額 (千円)			1,827	2,529	△ 702
1人当たり損害額 (円)			529	858	△ 329
出火率 (件/人口1万人)			2.9	3.4	△ 0.5

(注) 1. 焼損表面積とは、建物の焼損が部分的である場合をいう。(立体的に焼損が及ばなかった場合)

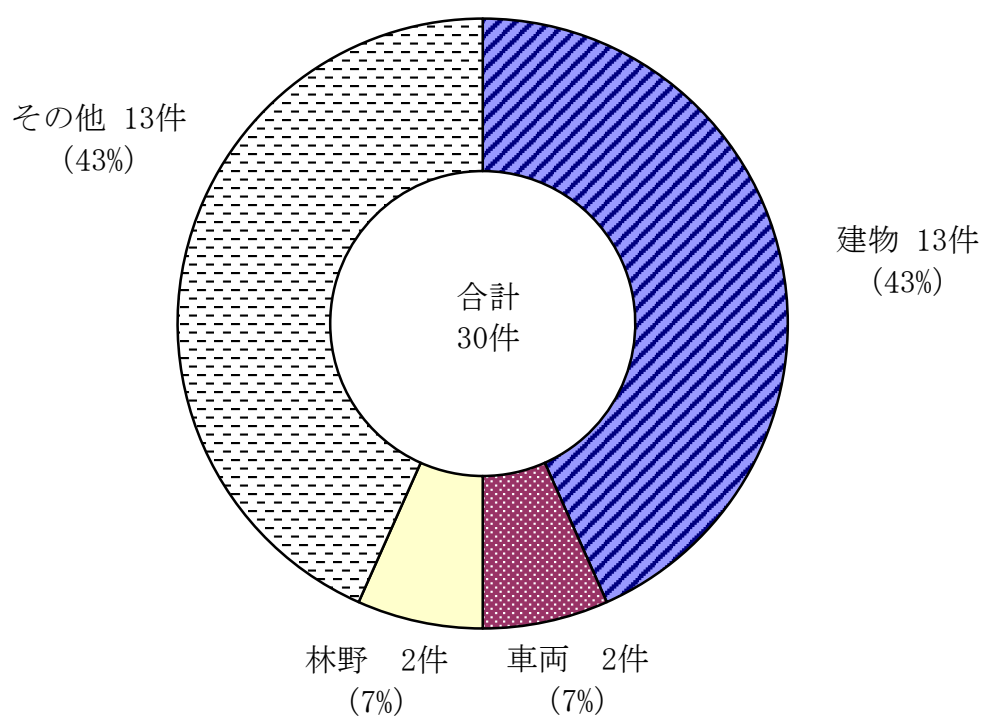
2. 1日平均発生件数は小数点第3位を四捨五入している。

(参考)管内の人口は103,687人(令和4年12月末現在)

3 出火件数

令和4年中の火災種別による出火件数は、建物火災が13件で、全体の約43%を占め、その他の火災を除くと、次いで車両火災及び林野火災の順となっている。

火災種別出火件数



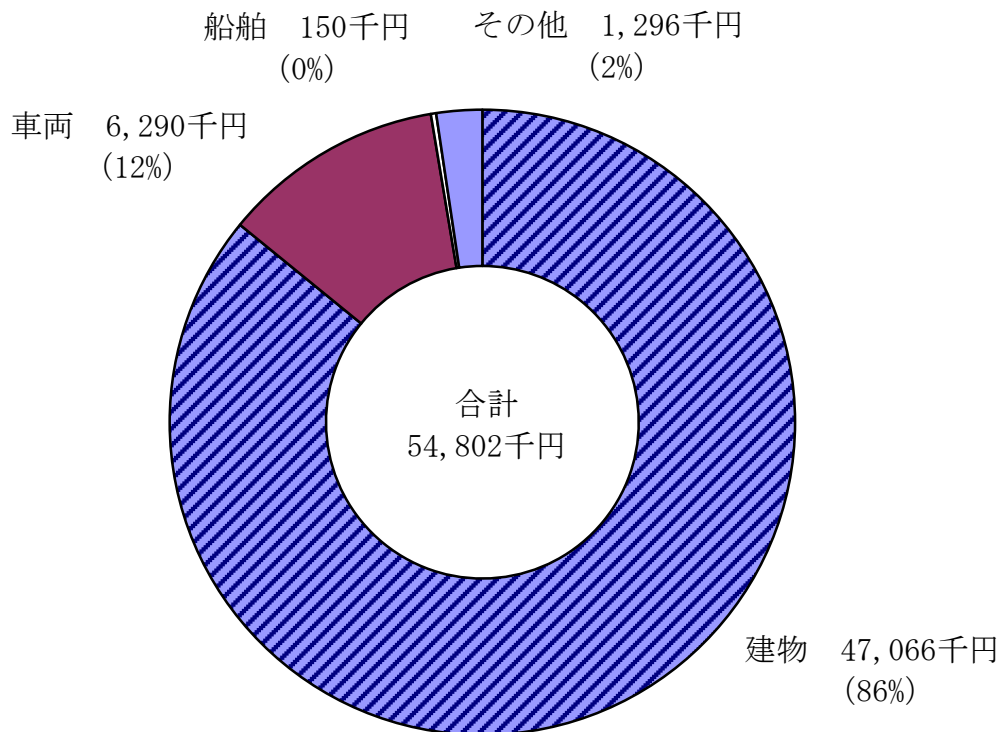
- (注) 1. その他の火災とは、建物火災、林野火災、車両火災、船舶火災及び航空機火災以外の火災（空地、田畑、道路、河川敷、ごみ集積場、屋外物品集積場、軌道敷電柱類等の火災）をいう。
2. 小数点以下を四捨五入している。

4 損害額

令和4年中の火災損害額は54,802千円で、前年に比べ33,697千円減少している。

損害額を火災種別で見ると、建物火災の損害額が全体の約86%を占め、次いで車両火災の順となっている。

火災種別損害額



- (注) 1. 小数点以下を四捨五入しているため、火災種別の船舶0.27%は表示上0%となる。
2. 合計を100%とするため、車両の11.4%は小数点以下を切り上げて12%としている。

資料1 月別の火災状況

区分 月別	出火件数						焼損棟数					り災程度				死傷者数		焼損面積等					
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	全損	半損	小損	り災人員	死者	負傷者	建物 (㎡)	林野 (a)	車両 (台)	船舶 (隻)	
1月																							
2月	4	2	1			1	12	9	1		2	5	3		2	10			685			1	1
3月	5	2				3	2	1		1		2	1		1	4	1		113				
4月	2	1				1	4	1		2	1								228				
5月	2	1				1	2	1		1				1	3				230				
6月	1					1																	
7月	6	3		1		2	4	2		2	3	1		2	10	1	2	141					
8月	6	2	1	1		2	2	1		1								114	6	5			
9月																							
10月																							
11月																							
12月	4	2				2	3	1		1	1	3	1		2	6	2	58					
合計	30	13	2	2		13	29	16	1	5	7	14	6		8	33	2	4	1,569	6	6		1

資料2 月別の火災損害額

区分 月別	損害額 (千円)								
	合計	建 物			林野	車両	船舶	その他	爆発
		小計	建物	収容物					
1月									
2月	21,419	21,109	16,756	4,353		160	150		
3月	4,231	4,105	3,379	726				126	
4月	2,138	2,138	540	1,598					
5月	10,724	10,694	6,830	3,864				30	
6月									
7月	2,705	2,705	2,376	329					
8月	8,134	2,000	1,907	93		6,130		4	
9月									
10月									
11月									
12月	5,451	4,315	4,166	149				1,136	
合計	54,802	47,066	35,954	11,112		6,290	150	1,296	

資料3 月別原因別の出火件数

区分	月別												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
こんろ			1				1						2
たき火		1	3	1	1	1	1	3				2	13
放火													
放火の疑い							1						1
たばこ												1	1
風呂かまど													
焼却炉													
煙突・煙道													
電気機器													
電灯・電話等の配線													
配線器具													
火あそび													
マッチ・ライター													
溶接機・切断機													
火入れ		1											1
かまど													
炉													
ストーブ													
こたつ													
ボイラー													
排気管													
電気装置													
内燃機関													
灯火							1						1
衝突の火花													
取灰													
その他		1						1					2
不明							1	1					2
調査中		1	1	1	1		1	1				1	7
合計		4	5	2	2	1	6	6				4	30

資料4 校区別の出火件数

校区別	火災種別					
	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計
波 多 江	1				1	2
東 風						
前 原	1					1
前 原 南						
南 風	2					2
加 布 里						
長 糸	1				1	2
雷 山						
怡 土	3	1	1		1	6
一 貴 山					2	2
深 江	1					1
福 吉	2				2	4
可 也					1	1
桜 野	2				1	3
引 津		1	1		4	6
合 計	13	2	2		13	30

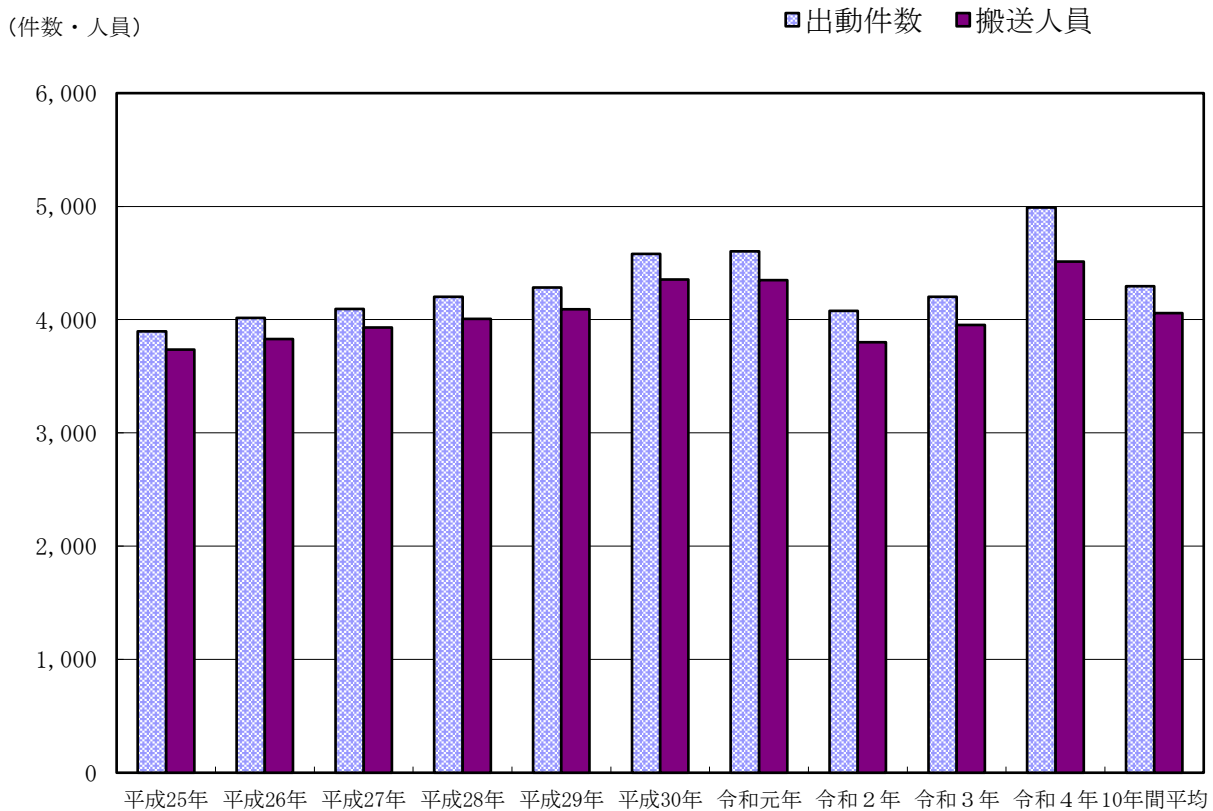
救急・救助編

1 救急出動件数の推移

令和4年中の救急出動件数は4,990件、搬送人員は4,513人で前年に比べ出動件数は788件増加、搬送人員は559人増加している。

最近10年間の平均出動件数は約4,295件、平均搬送人員は約4,057人である。

最近10年間の救急出動件数及び搬送人員の推移



年中 区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	10年間平均
出動件数	3,898	4,015	4,094	4,203	4,283	4,580	4,604	4,078	4,202	4,990	4,295
搬送人員	3,737	3,830	3,932	4,007	4,092	4,354	4,348	3,800	3,954	4,513	4,057

(注) 10年間平均は小数点以下を四捨五入している。

2 救急出動の状況

令和4年中の救急出動件数4,990件は、1日平均約14件出動したことになる。また、令和4年中の搬送人員4,513人は、住民の約23人に1人が搬送されたことになる。

概況表

区分		年中	令和4年	令和3年	比較	
出動件数	急病		3,194	2,474	720	
	交通		274	300	△26	
	一般負傷		814	734	80	
	自損行為		25	26	△1	
	労働災害		44	23	21	
	加害		11	13	△2	
	運動競技		23	19	4	
	火災		14	12	2	
	水難		11	5	6	
	自然災害		0	0	0	
	その他	管内転院搬送(注1)		46	65	△19
		管外転院搬送(注1)		515	514	1
		医師搬送		0	0	0
		その他		19	17	2
計			4,990	4,202	788	
1日平均(注2)			13.7	11.5	2.2	
不搬送			497	280	217	
搬送人員	性別	男	2,285	2,029	256	
		女	2,228	1,925	303	
	計			4,513	3,954	559
	程度別	死亡(注3)		4	5	△1
		重症(注4)		362	359	3
		中等症(注5)		2,604	2,251	353
		軽症(注6)		1,543	1,338	205
		その他(注7)		0	1	△1
	計			4,513	3,954	559
	1日平均(注2)			12.4	10.8	1.6

(注) 1. 転院搬送とは、医療機関に収容されている傷病者を他の医療機関に搬送することをいう。(管内とは糸島市内、管外とは糸島市外への搬送をいう。)

2. 1日平均発生件数は小数点第2位を四捨五入している。

3. 死亡とは、初診時において死亡が確認されたものをいう。

4. 重症とは、傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするものをいう。

5. 中等症とは、傷病程度が重症又は軽症以外のものをいう。

6. 軽症とは、傷病程度が入院加療を必要としないものをいう。

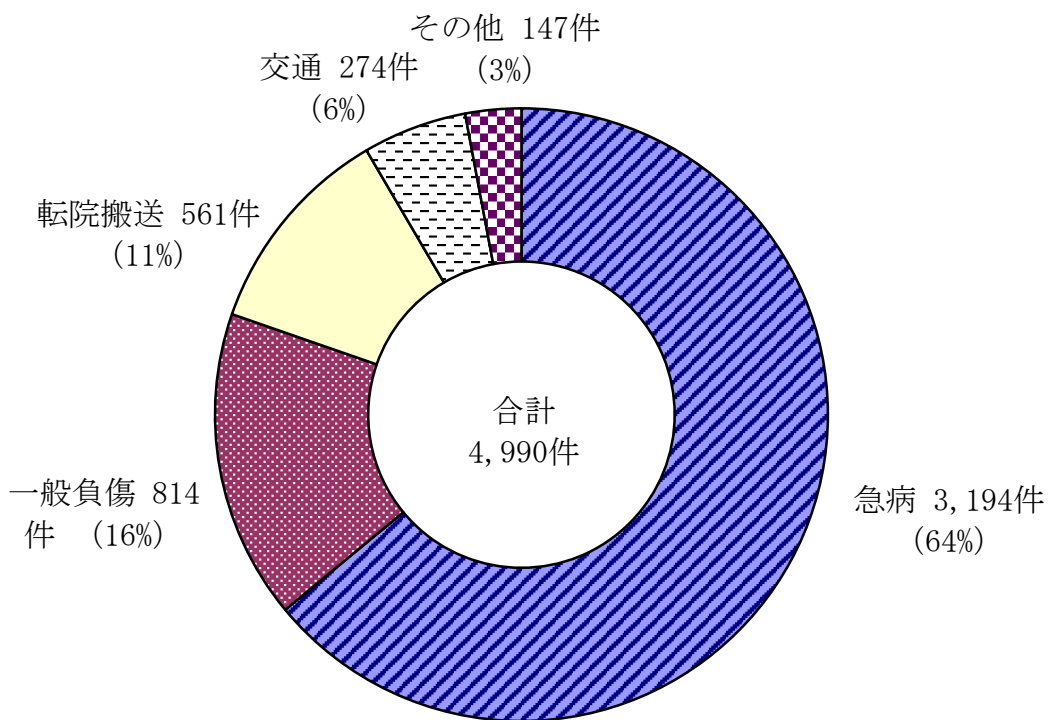
7. その他とは、医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないものをいう。

(参考) 管内の人口は103,687人(令和4年12月末現在)

3 事故種別の救急出動件数

事故種別による救急出動件数は、急病によるものが全体の約64%で半数以上を占め、次いで一般負傷、転院搬送の順である。

事故種別の救急出動件数



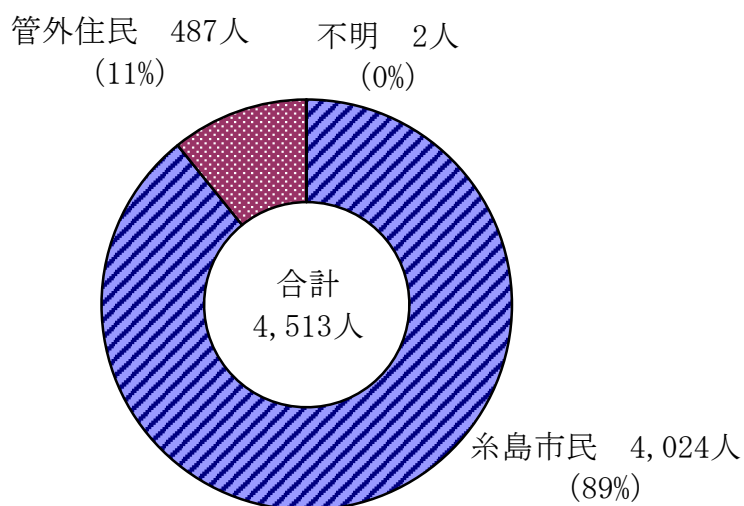
- (注) 1. 小数点以下を四捨五入している。
2. 合計を100%とするため、交通の5.4%は小数点以下を切り上げて6%としている。

4 住所・傷病程度・年齢別の搬送人員

令和4年中の救急搬送人員を住所別にみると、糸島市民が4,024人で大多数を占め、管外住民が487人である。また、傷病程度別にみると、重症と中等症の合計が全体の約66%で、軽症が約34%である。

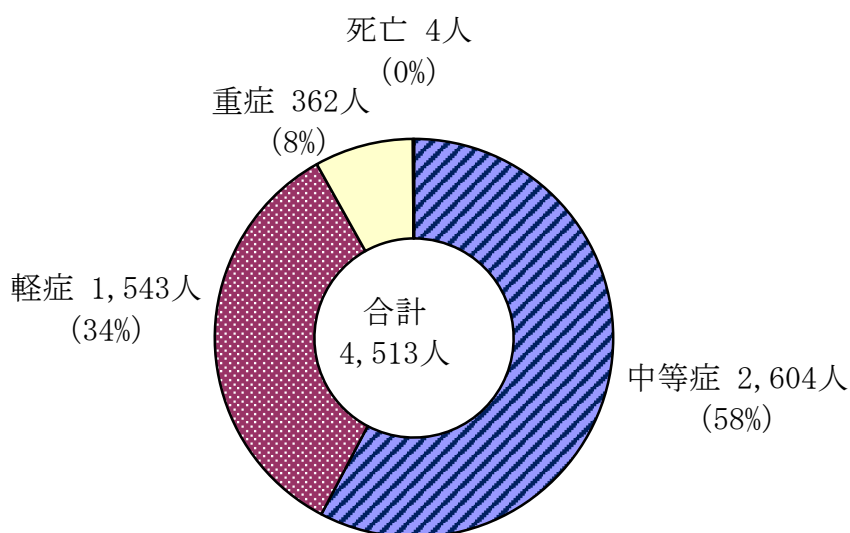
さらに年齢別でみると、65歳以上が全体の約65%を占めている。

図1 住所別の搬送人員



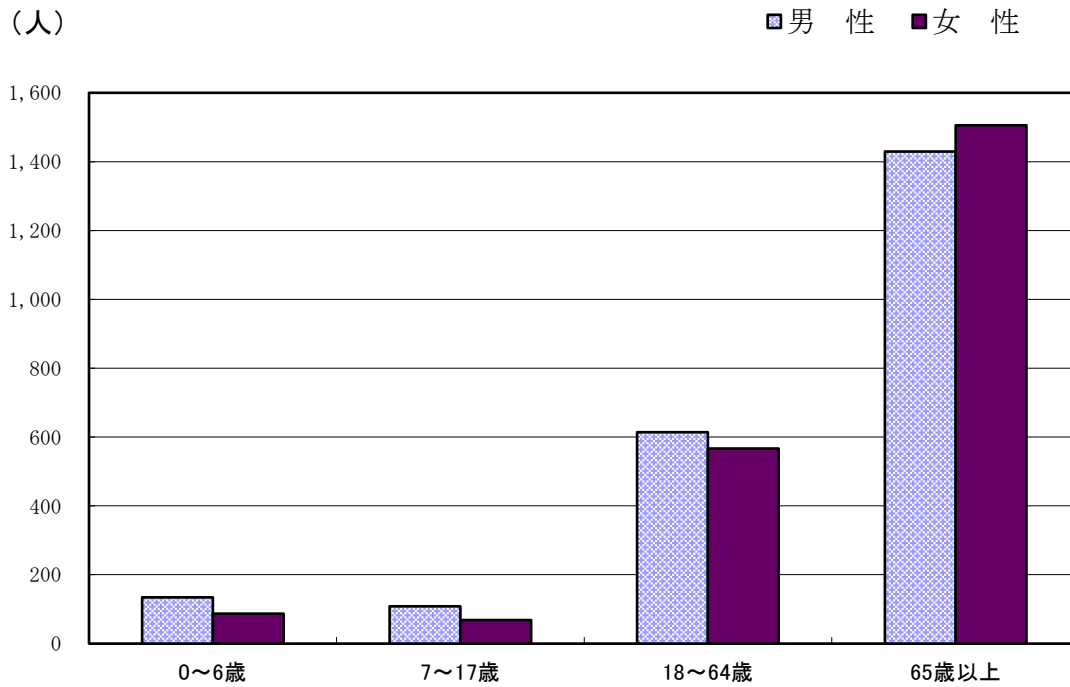
(注) 小数点以下を四捨五入しているため、不明の0.04%は表示上0%となる。

図2 傷病程度別の搬送人員



(注) 小数点以下を四捨五入しているため、傷病程度の死亡0.08%は表示上0%となる。

図3 年齢別の搬送人員



年齢 性別	0~6歳	7~17歳	18~64歳	65歳以上	計
男性	134	108	614	1,429	2,285
女性	87	68	567	1,506	2,228
計 (人)	221	176	1,181	2,935	4,513
比率 (%)	5	4	26	65	

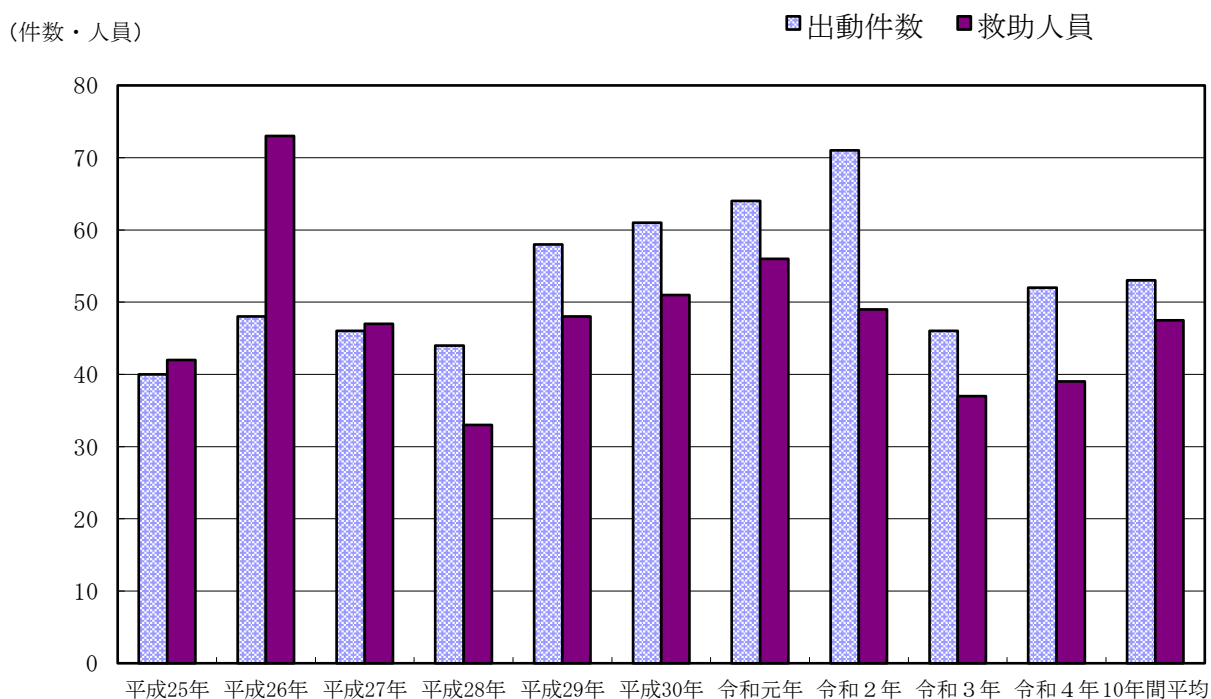
(注) 端数にあつては、小数点以下を四捨五入している。

5 救助出動件数の推移

令和4年中の救助出動件数は52件、救助人員は39人で、前年に比べ出動件数は6件増加、救助人員は2人増加している。

最近10年間の平均出動件数は約53件、平均救助人員は約48人である。

最近10年間の救助出動件数及び救助人員の推移



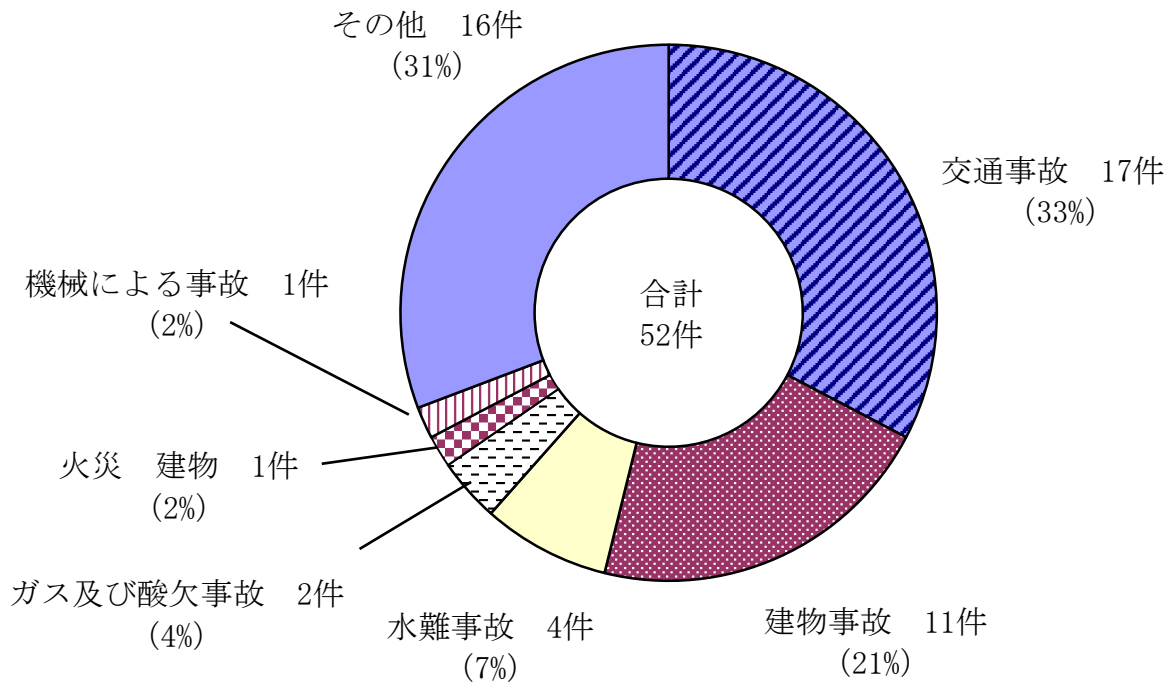
年中 区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	10年間平均
出動件数	40	48	46	44	58	61	64	71	46	52	53
救助人員	42	73	47	33	48	51	56	49	37	39	48

(注) 10年間平均は小数点以下を四捨五入している。

6 事故種別の救助出動件数

事故種別による救助出動件数は、交通事故によるものが全体の約33%を占め、その他を除くと、次いで建物事故、水難事故の順である。

事故種別の救助出動件数



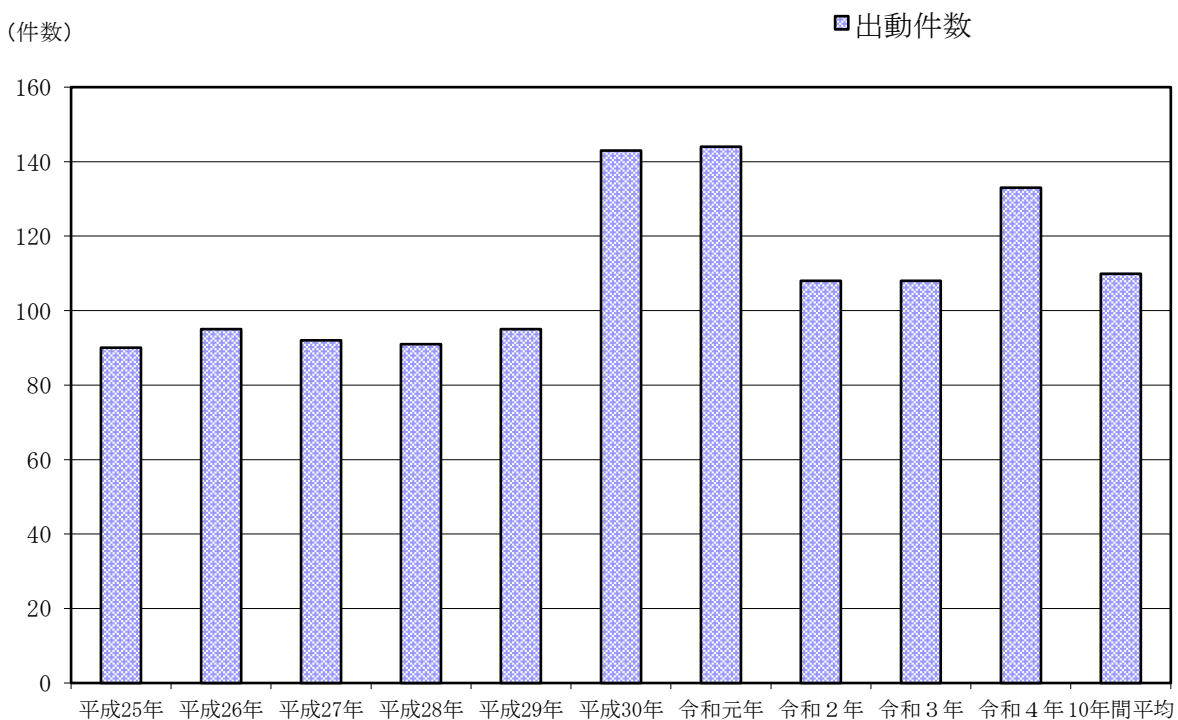
- (注) 1. 建物事故とは、建物、門、柵、塀等の建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故等をいう。
2. その他とは、上記事故種別以外の事故で、消防署による救助を必要としたものをいう。(山岳事故、墜落・転落事故等)
3. 小数点以下を四捨五入している。
4. 合計を100%とするため、水難事故の7.69%は小数点以下を切り捨て7%としている。

警 戒 編

1 警戒出動件数の推移

令和4年中の警戒出動件数は133件で、前年と比較して25件の増加であり、最近10年間の平均出動件数は約110件である。

最近10年間の警戒出動件数の推移



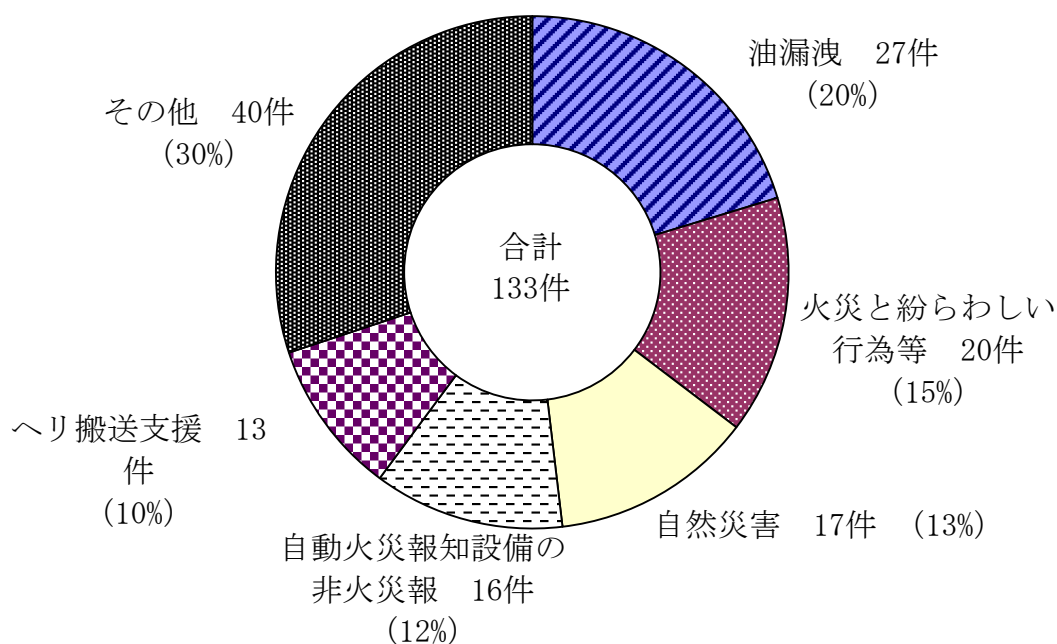
年中 区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	10年間平均
出動件数	90	95	92	91	95	143	144	108	108	133	110

(注) 10年間平均は小数点以下を四捨五入している。

2 原因別の警戒出動件数

出動件数を原因別にみると、その他を除いて油漏洩が全体の約20%を占めており、次いで火災と紛らわしい行為等、自然災害の順である。

原因別の警戒出動件数



- (注) 1. その他とは、上記種別以外の災害で、消防署による警戒を必要としたものをいう。(警戒警備、ガス漏洩等)
2. ヘリ搬送支援とは、ヘリコプターで傷病者の搬送を依頼する場合にヘリコプター臨時離着陸場の安全を確保するため、消防隊が出動したものをいう。
3. 小数点以下を四捨五入している。